

盛岡市史

現代

写　真　集

盛岡市史現代

写真集



写真集凡例

1　本書は、2020（令和２）年度から取り組む盛岡市史編さん事業の一環として刊行する写真集である。
盛岡市史編さん事業は、2019年度に「市制施行130周年」を迎えたことを契機として、昭和中期以降の時代の歴史と発展を記録に残し、後世に引き継ぐために『盛岡市史現代』を刊行する事業である。
写真集では、本市のまちなみや暮らし等を映し出し、市民や地域の視点でその時代の社会の移り変わりを写真によりまとめた。

2　本書の構成は、分野ごとに「章」「テーマ」の2階層を基本とし、必要に応じて「サブテーマ」を設けた。

例：物語る樹木たち（テーマ）　天然記念物の樹木（サブテーマ）

写真にはそれぞれ、タイトル・撮影時期・章番号・章ごとの通し番号を次のとおり付した。

例：盛岡駅周辺（タイトル）　1998（平成10）年（撮影時期）　00（章番号（00～06））　001（章ごとの通し番号）

キャプションは、サブテーマでまとめて、または写真ごとに付した。氏名・地名等の固有名詞を除き、原則として常用漢字・現代仮名遣いを用い、また、敬称は省略した。

3　掲載写真の提供者および協力者は巻末に一覧を付した。

4　掲載写真の無断二次使用を禁止する。

※掲載写真は、原則として、市民等の提供による許諾をいただいた写真ですが、提供写真には撮影者不詳であるものなどが一部含まれています。お気づきの点がある方は、市長公室企画調整課市史編さん室までご連絡をお願いいたします。

表紙

豊かな盛岡市の四季。それらを、盛岡市の市章と同じ模様のガラス窓からのぞき込もう。変わりゆく人々の営み、変わらない自然との距離の近さ。巡る季節、時代、盛岡市民の姿が垣間見えてくる。

〈写真〉
上：夏の中津川（染物流し）
下：夏の岩手公園（盛岡城跡公園）
市章内左：春の米内浄水場の桜
中央：秋の旧・盛岡高等農林学校本館
（提供：公益財団法人　岩手県観光協会）
右：冬の高松の池の白鳥

大扉

優しい色の空の下に咲く桜。桜が咲けばすぐに、春の百花が咲き乱れる華やかな季節が始まる。

〈写真〉
春の岩手公園（盛岡城跡公園）。桜と、鑿（のみ）跡の残る石垣。

目次

都市の真ん中で合流する３河川。市民の生活に潤いを与え、清らかに旅人を出迎え、また送り出す。遠く岩手山を望むこの景色は、変わらない盛岡と変わりゆく盛岡の融合を象徴するかのようだ。

〈写真〉
３河川合流地点上空から望む市街地と岩手山

刊行によせて



盛岡市長　内舘　茂

ここに『盛岡市史現代　写真集』を刊行し、皆様にお届けできる運びとなりました。

『盛岡市史現代』は、昭和の中期から平成の終わりまでの歴史と発展を後世に残すため、盛岡にゆかりの深い47人に、市史編さん委員、専門委員、８つの編集部会員として関わっていただき、編さんに取り組んでおります。

また、市民の皆様にとってわかりやすく親しみやすい内容とすることを基本方針とし、多くの人に愛され、活用される市史となることを目指して、編さんを進めております。

本写真集につきましても、この基本方針に基づき編集いたしました。変わりゆく盛岡のまちなみが比較できるように、航空写真による巻頭特集を設けたほか、市民や地域の目線でその時代の社会の移り変わりをとらえた写真を、分野別に紹介しております。ここに収めた風景や暮らしの様子は、初めて見る方、懐かしさを感じる方など見る方によってさまざまな受け止め方があると思いますが、郷土の歴史と変化をご覧いただき、盛岡市に対する理解と愛着を深めるきっかけとしていただければ幸いです。

結びに、本写真集の作成にあたり、貴重な写真を提供いただきました多くの個人や団体の皆様に心から御礼申し上げますとともに、御尽力をいただきました写真集部会員をはじめ御協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げ、刊行にあたってのことばといたします。

盛岡市史現代 写真集

CONTENTS

8 空から見る盛岡

19 第1章
山と川と緑のまち

20 暮らしのなかの春夏秋冬
24 物語る樹木たち
28 川と橋と6つのダム
38 街並み今昔
44 いにしえの建物
48 守られた歴史的景観
50 杜の都·もりおかの公園

59 第2章
交通と産業

60 交通とまちの発展
70 商業·工業·産業、都市のなりわい
77 農林業の風景

87 第3章
自治と市民活動

88 自治の基盤
92 生活水準の向上
94 命を守るために
100 姉妹都市·友好都市、都市間交流
102 より良い社会を目指す

109 第4章
暮らしを守る保健と福祉

110 健康な市民生活
114 保健福祉·子育て支援

127 第5章
教育と文化·スポーツ

128 学校の記憶、成長の記録
138 文化の基盤
146 成長する市民
155 食文化
156 受け継がれる伝統芸能・行事
158 さんさ踊り
159 支える、競う、みんなのスポーツ

169 第6章
市民の憩い

170 遊ぶ人々、集う人々
176 暮らしの歳時記
180 伝統の祭りとイベント

空から見る盛岡

空から見るとまちがよく見えます。
もりおかは、北上川、中津川、雫石川が
まちの動脈のように交差する自然ゆたかな中核都市です。
時代の異なるまちを眺めてみましょう。

盛岡駅周辺 1998（平成10）年 00001

1997（平成９）年11月、盛岡駅西口開発の中核施設として文化施設やオフィスなどが入った20階建ての複合ビル、盛岡地域交流センター（愛称・マリオス）が開業。1985（昭和60）年に廃止された国鉄盛岡工場の跡地を中心としたエリアの再開発が本格的にスタートした。



３河川合流地点 2023（令和５）年 00002

川のまち盛岡。北上川、中津川、雫石川の３河川合流地点上空から内丸、菜園等、昭和～平成～令和にかけて形成された盛岡中心市街地を俯瞰した。盛岡の玄関口で、山と川とまちが、訪問者を温かく出迎える。



岩山からの眺望 2022（令和４）年 00003

1970（昭和45）年の岩手国体開催、1982（昭和57）年の東北新幹線開業、1989（平成元）年の市制施行100周年といった時代の大きな節目を経て都市化と近代化が進んだ盛岡。標高340mの岩山からは変化し続ける市街地が展望できる。



内丸付近 1972（昭和47）年 00004

昭和30年代から40年代にかけて、内丸地区は市庁舎(1962年竣工)、県庁舎(1965年竣工)の他、裁判所、検察庁、警察署、合同庁舎などが相次いで建て替えられ、緑地や街路樹等とともに官庁団地として整備された。

第1章

山と川と緑のまち



岩手山と北上川 2010（平成22）年 01001

盛岡のまちを語る時、岩手山と北上川は欠くべからざる天然の舞台装置である。
この山と川は、はるか昔から盛岡のまちと人々の暮らしを見守り続けてきた。

川と橋と6つのダム

盛岡のまちは水の流れを生かしてつくられた。
北上川、中津川、雫石川の３河川が街の中央で一つになる。
周りには簗川（やながわ）など１級河川と６基のダムがある。豊かな水がまちにある。

中津川の情景



５代目・中の橋開通式 1957（昭和32）年 01031



中の橋
（昭和30年代後半） 01032

中の橋は1611（慶長16）年に架設、1956（昭和31）年に現在の５代目の橋に架け替えられた。商店街と官公庁を結び、写真からは車や人の往来が盛んなことが分かる。
５代目の中の橋開通式当時、橋のたもとの岩手銀行赤レンガ館は、赤字を想起させるからとの理由で白塗りにされており「白い明治館」などと呼ばれていた。



アユ釣り 1969（昭和44）年 01033
与の字橋下の中津川岸辺でアユ釣りを楽しむ市民たち。対岸に見える木造の建物と緑地は、県民会館が建設される以前の1971（昭和46）年までこの場所にあった県知事公舎とその庭園である。



中津川と３橋 1974（昭和49）年 01034
岸辺に立つ建物も両岸をつなぐ橋も中津川があればこそ映えている。盛岡市民の宝物ともいえるこの清流を先祖から引き継ぎ、守り、子孫に残すことが、今を生きる盛岡市民の務めであり誇りである。



市域のどこからでも望むことができる岩手山。

朝に夕に仰ぎ見て、その度その雄大さに息をのむ。

岩手山もまた、営々と続く

盛岡市民のいとなみを見守り続けている。

〈写真〉冬の岩山から望む岩手山

盛岡市史現代　写真集

編　集　盛岡市史編さん委員会
　　盛岡市史編さん専門委員会
発　行　盛岡市
　　〒020-8530 盛岡市内丸12番2号　TEL 019-651-4111(代表)
発行日　2024(令和6)年3月31日
印　刷　川口印刷工業株式会社